

会報

No. 107

平成27(2015).10.1

「移転開館を迎えた三木市立中央図書館」

三木市立中央図書館長 伊藤真紀

三木市立図書館は、昭和57年7月に市民の教育と文化の発展を図る中心施設として、三木城址の一角に設置しました。平成18年6月に策定した「三木市立図書館活性化構想」に基づき、平成21年11月には吉川図書館、平成22年6月には青山図書館を設置し、市内全域サービスを展開してきました。

その後、「歴史・美術の杜構想」が策定され、市立図書館は三木歴史資料館として活用し、新たな場所に新設することが決定。「第2次三木市立図書館活性化構想検討委員会」および「(仮称)三木市立中央図書館建設検討委員会」において協議を重ね、交通アクセスの良い三木市文化会館、市役所、教育センターが並ぶゾーンに建設が決まりました。



旧三木市立図書館

平成26年3月に新設工事を着工し、翌27年3月末に完成。その間、建築・設備・備品などの打ち合わせを挟みながら移転準備を進め、「ありがとう33年」と題し、図書館ボランティアの方々にご協力をいただいて閉館イベントを行いました。

4月1日、ここまで準備してきた前館長と正規職員1名が異動し、新館長の私と新しく採用した嘱託職員1名、アルバイト職員1名が新館準備作業に加わりました。4月26日、旧三木市立図書館は市民に惜しまれながら33年の歴史に幕を閉じ、閉館と同時に臨時図書館の準備をスタート。業務の合間に少しずつ準備していた1万冊の図書を、中央図書館隣の教育センターに移動させ、5月1日から臨時図書館の業務を開始しました。限られたスタッフの数で、臨時図書館の運営と中央図書館の開館準備は本当に大変でした。図書の移動と配架、サインの設置、事務所の移転、オープニングイベントの準備等々…。毎日夜遅くまで開館作業が続きました。

いよいよ7月1日オープンの日。朝から激しい大雨であい

にくのお天気でしたが、午前10時の開館前から図書館玄関に多くの方がつめかけ、新しい図書館の幕開けをお祝いいただきました。オープン式典は執り行わず、7月中は市民ボランティアによるイベントや図書館主催の展示や講演会など、長期にわたって新しい図書館をアピールし、楽しんでいただけるようにしました。



7月にオープンした中央図書館

中央図書館は、斜面を利用して里山を活かした設計になっています。建物は鉄筋コンクリート造一部鉄骨造2階建てで、2階が図書スペース、1階に書庫、視聴覚室、市民交流室という配置になっています。延床面積は2,121㎡で、旧図書館と比べ少し広くなり、閲覧スペースはワンフロアで利用しやすくなりました。以前は閉架していた郷土資料コーナーを開架し、BDSで管理することで郷土に関する資料を気軽に利用しただけのようにしました。また、図書スペースの大きな窓からは木々の緑が一面に広がり、「まるで森の中で読書をしているみたい。」と好評です。

平成17年度の三木市立図書館は単館で、蔵書数は159,668冊、貸出冊数は年間17万冊でした。18年度の図書館活性化構想後、図書の充実・司書の増員・専門職員による職員研修等の取り組みを行い、約9年間で1中央館2分館の複数館形態になり、平成26年度は蔵書が295,000冊、貸出冊数は約83万5千冊と目覚ましい成長を遂げてきました。

今後は第2次三木市立図書館活性化構想のコンセプトである「より多くの人に より多くの知る喜びを」を基に、まちの特色を生かしながら、知識を生み育て、議論を促し、新しい地域社会を創る源となるよう努めて参ります。そしてより質の高いサービスを提供し、市民の心の「豊かさ」を応援していきます。

日々の会話から・・・

たつの市立龍野図書館

かわべ きょうこ
河部 恭子

図書館の仕事に携わり、本当にあっという間に月日が流れました。たつの市には4つの図書館がありますが異動により現在の龍野図書館で3館目の職場になります。どこへ行ってもそうですが最初は来館される方々ほとんどが初対面で緊張、緊張の毎日です。しかし、そのうちカウンター越しに本以外の事での楽しい会話も増え、次第に利用者との距離が近づいているのを実感しています。そんな会話の中から、図書館への色々な要望（時には苦言もありますが・・・）を聞き、業務の向上や行事に繋げたりしています。

今年の夏もいくつかの行事をしましたが、利用者の要望から高校生以上を対象とした『ビブリオバトル』を初めて開催しました。初挑戦の高校生たちが場を盛り上げてくれました。このお知らせを見た中学生からは「今度は中学生の会もやって！」とのうれしい声も出ています。

毎日の利用者との対話を大切に「図書館に行けば何か得ることがある」と、生活の中に図書館の存在を置いてくださるありがたい利用者の思いに応え、またそんな利用者が増えるよう今後も努力していかねばと思う日々です。

来フゥラリ～

心のオアシス、図書館

兵庫県立図書館

はずま ゆりこ
強間 百合子

この度、15年勤続表彰をいただきました。郷土資料室からはじまり、調査相談室、協力課、資料課と各課を一巡し、様々な業務をさせて頂く機会を得ました。展示における広報でのNHKニュースやラジオ関西出演など貴重な経験も思い出になります。

子供の頃から図書館は身近にあり、概ね希望通りの仕事に携わってこられたことは、周りの方々のおかげと感謝しています。

その間、図書館を取り巻く状況は様変わりし、その進むべき方向について、多くの議論が錯綜したまま、時代に対応を迫られるという状況が続いています。

業務の内容も多様化複雑化しましたが、基本は資料であり、昔ながらの紙のページを読むという行為は不滅ではないでしょうか。

個人的には、旅行先で巡ったケルスス図書館（壁のみ現存）や韓国国立中央図書館、アムステルダム、メキシコシティ、プルンクザール、クレメンティヌム、ロンドンの小さな図書室等々で、歴史やサービスに違いはあれど、基本は同じとその有り様に嬉しくも思い安心もしました。

今後も図書館がどこへ向かっていくのか、模索しつつ楽しみにしながら、日々の業務に励みたいと思います。

児童室で想うこと

加古川市立加古川図書館

たぐい やよい
田杭 弥生

先日、永年勤続表彰を受けて年月の過ぎる早さの驚きとともに、日々勉強と改めて痛感しました。

私は現在児童室担当です。ここ数年、以前より児童室を幅広い年代の方に利用していただいているように感じます。お孫さんのために絵本を選ばれる方、自分が読む歴史や伝記の本を借りられる年配の方、お母さんよりお父さんの方が熱心に絵本を読んであげてのご家族など、それぞれに楽しんで本を選ばれています。

加古川図書館は一般室と児童室と別れているためか、子どもたちはリラックスした表情で児童室にやってきます。子どもたちは静かに、夢中になって読んでいます。小さい子どもたちがうれしそうに本を借りていく姿に、こちらまで笑顔になります。児童室にはゆったりとした時間が流れているようです。

私自身子どもの時、家の近くに図書館があったからたくさんの本が読めることができ、本当に幸せだったと感じています。子どもたちが図書館でいろんな本と出会い、幸せな時間を過ごせるお手伝いできたと思っています。

図書館と私

播磨町立図書館

まえの なおこ
前野 直子

図書館で働き始めた頃、こんな話を聞きました。

アフリカのある村では「お年寄りが一人亡くなるということは、図書館が一つ無くなったのと同じだ」と言われるそうです。お年寄りが村の歴史や生活の知恵を熟知していて、村人は困ったことがあるとお年寄りに聞きに行くからです。また、お年寄りを囲んで昔話なども語られ、村の人たちのくつろぎの場にもなっていたのだと思います。

図書館には、地域の人たちに対して、アフリカのお年寄りのような役割があるのだと教わりました。

図書館では、毎日たくさんの方にお会いできますが、その分「難しいな」と思うこともあります。ただ、今まで利用者の方からの「ありがとう」という言葉に何度も救われてきました。

地域の方が、何か困ったときに図書館を思い出していただけるよう、日々努力していきたいと思えます。

イラスト
(播磨町立図書館)



全国図書館大会助成事業報告

テーマ：ことば蔵開館3周年記念シンポジウム

開催日：平成27(2015)年7月5日(日)

会場：伊丹市立図書館ことば蔵

講師：大串夏身氏(昭和女子大学特任教授)

平成24年7月1日に開館したことば蔵は、自動書庫などの最新設備だけでなく、公園のような交流拠点として、イベントや飲食など自由に利用できる「交流フロア」を新たに設置しました。このフロアの活用を市民と一緒に考える「交流フロア運営会議」を毎月開催し、市民ならではのアイデアや人脈で、これまでにない新たなイベントが多数誕生しています。このように、ことば蔵では市民が利用するだけでなく、自らが主役になれる図書館として運営してきました。

そして今年7月、開館3周年を迎えるに当たり、市民と共にこれまでの3年間を振り返り、これからのことば蔵を考える「開館3周年記念シンポジウム」を開催しました。記念講演では、「挑戦する図書館」など図書館に関する様々な本を出版し、Library of the Yearの委員長も務めている大串夏身さんから、「これからの図書館」をテーマに本と情報を中心に置いた図書館のあり方や社会的な役割について講演していただきました。その後のパネルディスカッションで、過去に運営会議で発案された企画者(市民)から、発案したきっかけやその成果、感想などを発表。講師や参加者と自由に討論し、コンセプトである「公園のような図書館」実現に向け一緒に考えました。

この3年間で最も大きく変わったのは、イベントに参加する市民と、企画する市民の境界が無くなってきたことです。企画者が固定されることなく、次から次へと現れることで、ことば蔵が進化し続けることができました。このシンポジウムをきっかけに、さらに多くの市民に、図書館が開かれた存在であることをアピールできたのではないかと思います。

(伊丹市立図書館ことば蔵 小寺和輝)



テーマ：朝来市和田山図書館開館20周年記念事業

開催日：平成27年(2015)年8月1日(土)

会場：和田山ジュピターホール小ホール

内容：糸あやつり人形劇団みのむし公演「舌きりスズメ」

朝来市和田山図書館は、8月1日に開館20周年を迎えました。市制10周年でもある年に、記念になるような行事をと考え、糸あやつり人形劇団みのむしさんをお招きしました。当日は、夏休み中の土曜日ということもあり、たくさんの親子連れにご参加いただくことができました。

最初に登場したのは、腹話術人形のピノキオ君です。劇団のおじさんとの楽しい会話で、会場の雰囲気盛り上げてくれました。本編の演目は「舌きりスズメ」です。劇団の方から「お化けが出てくるので、ちょっとこわいかもしれませんよ」という説明を受けましたが、小さな子どもたちも途中で泣き出してしまいうことなく、最後まで楽しむことができました。



生の演技を見ることのできる機会にはまだまだ恵まれていない当市ですが、劇団のご厚意で、終演後に劇中に登場した人形を間近で見せていただくことができ、子どもたちにとってはとても貴重な体験となりました。もちろん、その場には私たち職員も同席し、まるで本当に生きているかのようになめらかに動く人形たちのしかけをじっくり観察させていただきました。舞台装置のしくみなども、おはなし会で人形劇やペーパースーツをする時の参考になればと思っています。

このような行事をきっかけに、図書館に足を運び、本の楽しさを知って“読書”という有意義な時間を過ごしていただける方が一人でも多く増えますようにと、職員一同願っています。

(朝来市和田山図書館 垣内春江)

協会からのお知らせ

表彰者の紹介（敬称略）

永年 弭間百合子（県立）
松尾宗一郎（神戸）
田杭弥生（加古川加古川）
前野直子（播磨）
中濱まきほ（相生）
石井潔子（たつの龍野）
河部恭子（たつの龍野）
岡村美和子（たつの揖保川）
山本明子（たつの御津）

平成27年度役員紹介（敬称略）

会 長 善部 修（県立）
副会長 田中豊久（県立） 三木真人（神戸）
前川千陽（三田） 竹内久義（加古川）
理 事 平瀬正夫（猪名川） 伊藤真紀（三木）
太田俊夫（姫路） 新家義行（赤穂）
大森友子（丹波） 清水吉晴（新温泉）
垣本義博（南あわじ） 塩谷圭一（議会）
監 事 丸尾恵子（芦屋） 山下健介（福崎）

平成27年度全国図書館大会助成事業

- 伊丹市立図書館
ことば蔵開館3周年記念シンポジウム「これからの図書館」／講師：大串夏身氏（昭和女子大学特任教授）／7月5日（日）
- 朝来市和田山図書館
朝来市制10周年及び和田山図書館20周年記念事業「舌きりスズメ」／公演：糸あやつり人形劇団みのむし／8月1日（土）
- 神戸市立中央図書館
職員研修「電子書籍サービスの導入について」／講師：浅野隆夫氏（札幌市中央図書館都心図書館担当係長）／10月15日（木）
- 丹波市立中央図書館
丹波市子ども読書推進講座「絵本の読み聞かせ入門講座」（2回講座）／講師：笹倉剛氏（武庫川女子大学講師 他）／11月21日（土）、12月12日（土）
- 西宮市立鳴尾図書館
連続読書会「村上春樹を読もう・語ろう」（全5回講座）／講師：土居豊氏（園田学園女子大学講師 他）／11月22日（日）、12月20日（日）、平成28年1月17日（日）、2月21日（日）、3月20日（日）

- 西宮市立中央図書館
職員向け研修会「これからの図書館と図書館職員の役割」／講師：常世田良氏（立命館大学文学部教授）（予定）／平成28年3月3日（木）
- 川西市立中央図書館
子どもの読書活動推進講演会「絵本バンザイ」（仮題）／講師：武田美穂氏（絵本作家）／平成28年2月14日（日）
- 福崎町立図書館
ストーリーテリング講座（全3回連続講座）／講師：小栗栖真弓氏（姫路おはなしの会）／平成28年1月13日（水）、2月10日（水）、3月9日（水）
- 兵庫県立図書館
子ども読書大学連携モデル事業「えほんdeピクニック」の開催／実施日時未定

平成27年度の大会・研究集会（今後の予定）

- ひょうご子ども読書活動推進フォーラム
「公立図書館と学校との連携強化」本モノ体験！
・阪神・丹波地区「防災」／ワークショップ：加藤茂弘氏（県立人と自然の博物館主任研究員）
三味線朗読講演：小泉八雲「生き神」ビブリオ堂ちんげんさい×サンダリン トークセッション ビブリオバトル甲子園予選大会（中・高生の部）／三田市立図書館／11月8日（日）
・神戸・淡路地区「食と農」／講演：古本強氏（龍谷大学農学部教授）トークセッション ビブリオバトル甲子園予選大会（中・高生の部）／洲本市立洲本図書館／11月22日（日）
・全県フォーラム「子ども読書と地域資源」／講演：小泉凡氏（島根県立大学短期大学部教授）
岩槻邦男氏（県立人と自然の博物館名誉館長）
トークセッション ビブリオバトル甲子園決勝大会（中・高生の部、社会人の部）／神戸市勤労会館／12月20日（日）
- 文科省・図書館地区別研修（近畿地区）
「連携する図書館」／明石商工会議所／平成28年1月19日（火）～22日（金）

兵庫県図書館協会会報 No.107
平成27(2015)年10月1日 発行
編集・発行：兵庫県図書館協会
〒673-8533 明石市明石公園1-27
兵庫県立図書館内
Tel 078-918-3366 Fax 078-918-2500
E-mail:hyoto_hyotokyo@library.pref.hyogo.lg.jp